

1. 月別気象概況（平成15年1月～12月）

福岡管区気象台

（1）1月の気象概況

1月上旬：冬型の気圧配置が強まり、厳しい寒さ、5日は飯塚で積雪13cm

中頃に冬型の気圧配置が強まり、この冬一番の寒気が流れ込んだため、厳しい寒さとなった。

3日から5日にかけては低気圧が発達しながら日本海西部と九州南岸をそれぞれ通過した後、強い冬型の気圧配置となった影響で、県内各地で4～30mmの降水量を観測した。福岡では3日夜からのみぞれが4日は雪に変わった。5日は飯塚で13cm、久留米で6cm、福岡と八幡で1cmの積雪を観測した。気温は、各地とも日最高気温が10以下の日がほとんどで、5日と6日の日最高気温は各地とも5未満となり、平年を5～10も下回った。特に添田では冷え込み、5日の日最高気温が-1.0までしか上がらず、この冬初めて真冬日となった。県内各地の旬平均気温は平年より2.1～3.7低く、旬降水量は6～30mm（平年比22～112%）で、旬日照時間は平年比50～105%と宗像、飯塚、福岡、前原で少なかった他は平年並であった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量と日照時間は少なかった。

1月中旬：天気は短い周期で変化、冬型の気圧配置は一時的

冬型の気圧配置は長続きせず、天気は短い周期で変化した。14日から15日にかけては強い冬型の気圧配置となり、しぐれて1～5mmの降水量を観測した所があった。18日から19日にかけては前線や低気圧の影響で1～9mmの降水量を観測した所があった。また、17日は九州南海上に中心を持つ高気圧から暖かい空気が流れ込んだため気温が上がり、八幡で日最高気温が14.8を観測するなど3月上旬から下旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.4～1.6高く、旬降水量は1～23mm（平年比4～65%）と少なく、旬日照時間は平年比91～145%で平年並が多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

1月下旬：曇りや雨または雪の日が多い、後半は冬型の気圧配置強まる

低気圧や強い寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多かった。22日から23日にかけては低気圧が九州北部を通過し、県内各地で15～49mmのまとまった雨が降った。27日の夜から30日にかけては冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が流れ込んだため厳しい寒さとなった。29日は久留米で5cm、福岡で1cmの積雪となった。また29日は季節風も強く、福岡で01時02分に西北西の風21.7m/sの日最大瞬間風速を観測した。県内各地の旬平均気温は平年差-0.5～+0.2で、旬降水量は30～76mm（平年比205～323%）と多く、旬日照時間は平年比73～100%と少ない所が多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少なかった。

(2) 2月の気象概況

2月上旬：天気は周期的に変化、5日は雪やみぞれ、後半は気温が高い

低気圧が数日おきに九州の南海上や日本海、対馬海峡を通過して、天気は周期的に変化した。5日は一時的に冬型の気圧配置が強まったため、雷を伴って雪やみぞれが降る荒れた天気となり、6日は久留米で3cmの積雪があった。8日は低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で9～24mmの雨が降った。旬の後半は暖かい空気が流れ込んだため、気温は平年より高い日が多かった。特に、10日は日最高気温が甘木で17.5、久留米で16.8を観測するなど、3月中旬から4月上旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年より1.0～1.6高く、旬降水量は11～51mm(平年比77～244%)で、旬日照時間は平年比83～110%と多い所が多かったが、甘木、久留米、黒木、大牟田では少なかった。福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は多かった。

2月中旬：天気は周期的に変化、19日夜から20日に強い寒気が入り福岡でひょうを観測

数日おきに低気圧や寒気の影響を受けて、天気も周期的に変化した。11日は低気圧が四国沖から三陸沖へ進み、県内各地で0～10mmの雨が降った所があった。15日から16日にかけては低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で8～15mmの雨が降った。19日夜から20日にかけては強い寒気が流れ込み大気の状態が不安定となった。このため、福岡では雷やひょうを観測するなど荒れた天気となり19日から20日にかけて県内各地で10～26mmの降水量を観測した。また、20日は冬型の気圧配置となり季節風も強く、福岡で06時33分に北の風22.0m/sの日最大瞬間風速を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.1～0.8高く、旬降水量は22～48mm(平年比64～126%)で、旬日照時間は平年比92～114%とほぼ平年並であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

2月下旬：天気は周期的に変化、気温が高い

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。22日から24日にかけては低気圧が九州北部を通過した後、前線が九州の南海上に停滞したため、県内各地で11～28mmの雨が降った。今旬は寒気の流れ込みもなく、気温は平年より高く経過した。特に、22日は低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んだため、日最高気温が前原で17.2、福岡で16.8など、県内のほとんどの観測所で3月下旬から4月中旬並の気温となった。県内各地の旬平均気温は平年より1.6～2.9も高く、旬降水量は15～34mm(平年比59～129%)で、旬日照時間は平年比86～132%とほぼ平年並であった。福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量と日照時間は平年並であった。

(3) 3月の気象概況

3月上旬：曇りや雨またはみぞれの日が多い、日照時間がかなり少ない

2日は高気圧に覆われて晴れたが、その他の日は低気圧や寒気の影響で曇りや雨またはみぞれが降った日が多かった。このため、日照時間はほとんどの所で平年よりかなり少なかった。1日は低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で18～39mmの雨が降った。3日は日本海の低気圧から伸びる寒冷前線が福岡県を南下したため、県内各地で10～23mmの雨が降った。6日から7日にかけては低気圧が九州南部を通過したため、県内各地で18～53mmの雨が降った。前線や低気圧の通過後は冬型の気圧配置となり、福岡ではみぞれやあられを観測するなどしぐれる日が続き、気温は平年を下回る日が多かった。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.6\sim+0.2$ で、旬降水量は54～126mm(平年比155～246%)と多く、旬日照時間は平年比36～71%だった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

3月中旬：中頃は曇りや雨、寒気が入り気温が低い

中頃は低気圧や前線の影響で曇りや雨となったが、初めと終わりは高気圧に覆われて晴れた。今旬は、大陸に中心を持つ高気圧が九州付近に張り出し寒気が流れ込んだため、平年より気温が低い日が多かった。11日は強い寒気の影響で、福岡であられやみぞれを観測した。14日から17日にかけては低気圧や前線の影響で、県内各地で19～30mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.5～1.3低く、旬降水量は19～30mm(平年比40～57%)と少なく、旬日照時間は平年比117～139%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は少なく、日照時間は多い。

3月下旬：晴れの日が多い、22日は福岡でソメイヨシノ開花

天気は短い周期で変化したが崩れは小さく、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。21日から22日にかけては低気圧が四国沖を東進したため、県内各地で8～23mmの雨が降った。27日は弱い寒冷前線が福岡県を南下したため、1～7mmの雨が降った所があった。31日は日本の東に中心を持つ高気圧に覆われて、南から暖かい空気が流れ込んだため気温が上がり、県内のほとんどの観測所で日最高気温が20を超え、宗像では日最高気温が25.2と今年初めての夏日となった。福岡では22日にソメイヨシノの開花(平年より4日早い)、28日にソメイヨシノの満開(平年より6日早い)を観測した。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.1\sim+1.4$ で、旬降水量は12～31mm(平年比23～55%)と少なく、旬日照時間は平年比133～173%と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

(4) 4月の気象概況

4月上旬：曇りや雨の日が多い

前半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、後半は低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化したが、低気圧の通過後も寒気の影響が残り曇りの日が多かった。1日は低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で11～37mmの雨が降った。4日は低気圧が九州の南海上を通過したため、県内各地で13～37mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年差 $-0.2\sim+0.6$ で、旬降水量は40～90mm(平年比76～145%)で、旬日照時間は平年比75～97%と少ない所が多かった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間は少なかった。

4月中旬：天気は周期的に変化

天気は概ね周期的に変化した。初めと終わりに前線の影響で雨が降り、19日から20日にかけては前線が九州北部地方に停滞したため、県内各地で15～99mmのまとまった雨が降った。中頃は高気圧に覆われて晴れの日が多く、16日から18日にかけて今年初めての夏日となった所が多かった。県内各地の旬平均気温は平年より2.1～3.0高く、旬降水量は26～111mm(平年比61～183%)で筑後地方を中心に多く、旬日照時間は平年比81～101%と平年並であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は平年並であった。

4月下旬：天気は周期的に変化

低気圧や前線と高気圧が交互に通る、天気は概ね周期的に変化したが、前線通過後も寒気の影響が残るなど曇りの日が多かった。23日は低気圧が朝鮮半島南岸を通過し、24日は前線が九州北部に停滞して活動が活発となり、25日は台風第2号から変わった熱帯低気圧が九州付近を通過したため、23日から25日にかけて県内各地で31～109mmの雨が降った。29日から30日にかけては寒冷前線が福岡県を南下したため、県内各地で13～44mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.8～1.6高く、旬降水量は48～134mm(平年比117～266%)と多く、旬日照時間は平年比67～88%と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

(5) 5月の気象概況

5月上旬：中頃は曇りや雨、初めと終わりは高気圧に覆われ晴天、5日は久留米で最高気温 29.4

低気圧や前線の影響で曇りや雨となったが、初めと終わりは高気圧に覆われて、快晴または晴れの天気となった。このため、県内各地の日照時間は平年より多かった。6日から8日にかけては低気圧が黄海から日本海へ進み寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で18～98mmの雨が降った。

気温は、中頃まで平年を上回る日が多く、5日は久留米で29.4、黒木で28.9の日最高気温を観測した。7日は黄海付近の低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んだため、県内の全ての観測所で日最高気温が25以上の夏日となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.3～1.3高く、旬降水量は18～100mm(平年比35～125%)で、旬日照時間は平年比111～130%だった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

5月中旬：前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多い

前半は九州の南海上に停滞した前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多かったが、後半は梅雨前線が南西諸島付近まで南下したため、梅雨前線の北側の高気圧に覆われて晴れの日が多かった。13日から15日にかけては東シナ海の低気圧が九州南部を通過したため、県内各地で39～111mmのまとまった雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.6高く、旬降水量は39～111mm(平年比54～155%)で、旬日照時間は平年比72～97%で、福岡、宗像、大牟田で少なく、その他は平年並だった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間は少なかった。

5月下旬：気温がかなり高い、29日は前原で日最高気温 32.7、31日は台風第4号が接近

天気は周期的に変化した。24日から26日にかけては東シナ海の低気圧がゆっくりと九州南岸を通過したため、県内各地で5～25mmの雨が降った。30日から31日にかけては台風第4号の影響で県内各地で12～76mmの雨が降った。その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れた。今旬は気温の高い日が多く、特に28日から29日は高気圧に覆われて南から暖かい空気が流れ込み、強い日射の影響も加わって気温が上がり、28日は福岡や前原などで今年初めて日最高気温が30以上の真夏日となった。29日は前原で日最高気温32.7を観測し、5月の日最高気温の高い方からの第1位を記録した。

26日09時にルソン島の西で発生した台風第4号は、31日には日向灘を北上し、明け方福岡県に最も接近した。この影響で、福岡では06時13分に北の風20.0m/sの日最大瞬間風速を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より1.1～2.3高く、旬降水量は25～101mm(平年比54～177%)で、旬日照時間は平年比62～88%と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

(6) 6月の気象概況

6月上旬：晴れの日が多く、日照時間がかなり多い、九州北部地方は9日頃梅雨入り

東シナ海や日本の東に中心を持つ高気圧に覆われて、晴れの日が多かった。9日は低気圧が南西諸島付近をゆっくり北東進した影響で、夕方から雨が降り出した所があり、9日から10日にかけて1~8mmの雨が降った所があった。今後も曇りや雨の日が多い見込みとなったため、福岡管区气象台は「九州北部地方は6月9日頃梅雨入りしたとみられる」と発表した(平年より4日遅く、昨年より1日早い)。県内各地の旬平均気温は平年より0.1~0.8 高く、旬降水量は0~8mm(平年比0~10%)と少なく、旬日照時間は平年比142~212%とかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

6月中旬：19日は台風第6号が接近、福岡で日最大瞬間風速37.8m/sを観測

低気圧や梅雨前線、台風の影響で曇りや雨の日が多かった。12日は低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で7~47mmの雨が降った。18日は梅雨前線が九州北部まで北上して活動が強まり、県内各地で41~74mmの雨が降った。19日は台風第6号が対馬海峡を北東進したため、県内各地で20~71mmの雨が降った。台風第6号は19日の昼頃、福岡県に最も接近し、福岡では13時40分に南の風37.8m/sの日最大瞬間風速を観測し、6月の日最大瞬間風速の第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年差0.0~+0.7 で、旬降水量は79~201mm(平年比77~161%)で、旬日照時間は平年比38~67%だった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

6月下旬：曇りや雨の日が多い

梅雨前線が九州付近に停滞することが多く、曇りや雨の日が多かった。22日から24日にかけては梅雨前線が九州南部から九州北部へ北上したため、県内各地で32~91mmの雨が降った。27日から28日にかけては梅雨前線が山陰沖から九州中部付近まで南下したため、県内各地で17~91mmの雨が降った。30日は梅雨前線が九州北部まで北上したため、県内各地で4~56mmの雨が降り、久留米では1時間に32mm、柳川では1時間に33mmの激しい雨を観測した。県内各地の旬平均気温は平年差-0.7~+0.7 で、旬降水量は64~207mm(平年比43~127%)で、旬日照時間は平年比63~88%だった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間は少なかった。

(7) 7月の気象概況

7月上旬：曇りや雨の日が続く

梅雨前線が九州北部から対馬海峡に停滞することが多く、曇りや雨の日が続いた。このため県内のほとんどの観測所で日照時間は平年より少なかった。1日は低気圧が九州北部を通過したため、県内各地で6～140mmの雨が降り、宗像では1時間に33mmの激しい雨を観測した。7日から8日にかけては梅雨前線が九州北岸から対馬海峡に停滞したため、県内各地で31～144mmのまとまった雨が降り、7日に九千部山では1時間に38mmの激しい雨を観測した。気温は、前半は平年を下回ったが、後半は暖かい空気が流れ込んだため、日最高気温が30以上の真夏日となる日が多かった。特に、9日の最高気温は福岡で33.4を観測するなど、県内全ての観測所で30を超え、10日は各地で最低気温が25以上の熱帯夜となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.3～1.2高く、旬降水量は71～274mm(平年比40～170%)で、旬日照時間は平年比31～60%と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少なかった。

7月中旬：前線の活動が強まる、19日は記録的な大雨

梅雨前線が九州北部から対馬海峡に停滞したため、曇りや雨の日が多く、旬の初めと終わりは梅雨前線の活動が強まり大雨が降った。11日は頂吉や篠栗などで日降水量が100mmを超える大雨が降った。19日は梅雨前線の活動が強まり、日降水量が局地的に200mmを超える大雨となった。特に、太宰府で315mm、飯塚で267mmの日降水量を観測し、ともに1日の降水量としては年間を通して最も多い値を記録した。また、最大1時間降水量も、04時50分までの1時間に太宰府で104mm、飯塚で83mmの猛烈な雨を観測し、ともに年間を通して最も多い値を記録した。この雨により、太宰府市では土砂災害で1名が死亡した。また、御笠川が氾濫し、太宰府市から福岡市にかけて浸水害が発生した。さらに飯塚市等でも多数の浸水害が発生した。県内各地の旬平均気温は平年より1.7～2.5低く、旬降水量は166～533mm(平年比137～423%)と多く、旬日照時間は平年比35～69%で太宰府と行橋で平年並であった他は少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり低く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

7月下旬：前半は曇りや雨、後半は晴れの日が多い、九州北部地方は31日頃梅雨明け

下旬の前半は梅雨前線の影響で曇りや雨となり、後半は北からの高気圧に覆われて晴れの日が多かった。21日から25日にかけては梅雨前線が九州北部から朝鮮半島付近に位置し、24日は頂吉で1時間に51mmの非常に激しい雨を観測するなど、前線の活動が活発となった日もあり、県内各地で21～93mmの雨が降った。26日は高気圧に覆われ晴れ、29日は前線を伴った低気圧が朝鮮半島から日本海へ抜け、寒冷前線が九州北部に南下したため、県内各地で27～85mmの雨が降った。31日は日本海の高気圧に覆われて晴れた。福岡管区気象台は「九州北部地方は31日頃梅雨明けした」と発表した(平年より13日遅く、昨年より10日遅い)。県内各地の旬平均気温は平年より1.2～2.5低く、旬降水量は49～170mm(平年比66～258%)で、旬日照時間は平年比54～87%だった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

(8) 8月の気象概況

8月上旬：7日から9日にかけて台風第10号の影響でまとまった雨

6日まで太平洋高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いたが、4日から5日にかけては強い日射の影響で大気の状態が不安定となったため、筑後地方を中心に18～51mmの雨が降った所があった。7日から9日にかけては台風第10号が九州南海上から四国、近畿地方を通過した影響で、県内各地で44～212mmのまとまった雨が降り、7日は八幡で1時間に57mmの非常に激しい雨を観測した。また、福岡では8日の18時21分に北北西の風19.9m/sの最大瞬間風速を観測した。気温は中頃まで平年を上回る日が多く、6日の最高気温は太宰府、甘木、久留米で35以上となり、7日は福岡でも35.3を観測し、今年一番の暑さとなった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.6～+0.1で、旬降水量は45～230mm(平年比108～425%)で多く、旬日照時間は平年比102～168%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

8月中旬：曇りや雨の日が多い、平均気温が低く、日照時間が少ない

前線が九州付近に停滞しやすく、18日まで曇りや雨のぐずつした天気が続いた。このため、県内の日照時間は各地とも平年の6割前後と少なかった。また、北からの冷たい空気が流れ込んだため、各地の平均気温は平年より1以上低かった。11日は低気圧が対馬海峡を通過し寒冷前線が福岡県を南下したため、短時間に大雨が降り、福岡では1時間に61.5mmの非常に激しい雨を観測した。16日から18日にかけては前線が九州南岸から対馬海峡まで次第に北上し、県内各地で4～44mmの雨が降った。その後は太平洋高気圧に覆われたため、晴れて気温も上がった。20日は強い日射の影響で甘木で最高気温35.8を観測し、今年一番の暑さとなった。県内各地の旬平均気温は平年より1.0～1.9低く、旬降水量は56～131mm(平年比83～188%)で、旬日照時間は平年比53～69%と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

8月下旬：初めは晴天、中頃からは曇りや雨の日が多い

初めは太平洋高気圧に覆われて、晴れて暑い日が続いたが、中頃からは前線が対馬海峡から九州北部に停滞しやすく、曇りや雨の日が多かった。25日から26日にかけては前線が朝鮮半島中部から九州北部まで南下したため、県内各地で18～89mmのまとまった雨が降り、25日は添田で、26日は柳川で1時間に30mmを超える激しい雨を観測した。28日も前線が対馬海峡から九州北部に南下したため、県内各地で7～56mmの雨が降った。気温は、25日までは県内の全ての観測所で最高気温が30以上の真夏日が続き、特に、甘木では24日まで4日間連続して最高気温が35以上となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.6～1.4高く、旬降水量は36～149mm(平年比39～171%)で、旬日照時間は平年比67～98%と大牟田でかなり少なかった他は、平年並か少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は少なかった。

(9) 9月の気象概況

9月上旬：9日まで晴れの日が続き、残暑が厳しい

太平洋高気圧に覆われることが多く、9日まで晴れの日が続き、多くの観測所で日最高気温が連日30を超え、厳しい残暑となった。このため、県内各地の日照時間は平年よりかなり多かった。1日は強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、北部沿岸部で1~33mmの雨が降った所があった。9日の夕方から10日にかけては南から湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり、県内各地で20~90mmのまとまった雨が降った。9日は九千部山で1時間に55mmの非常に激しい雨を観測したほか、福岡でも雷を伴ってやや強い雨が降った。気温は旬を通して平年より高く経過し、2日の日最高気温は八幡で34.5、5日の日最高気温は添田で34.4を観測し、ともに9月の日最高気温の高い方からの第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年より2.8~3.5も高く、旬降水量は21~91mm(平年比26~130%)で、旬日照時間は平年比144~179%とかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年並、日照時間はかなり多かった。

9月中旬：晴れの日が多く、気温が高い

初めと終わりは台風や前線の影響で曇りや雨となったが、天気の流れは小さく、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。12日から13日にかけては台風第14号が九州の西海上を北上し、対馬海峡の西水道を北上し朝鮮半島南岸に上陸した後、日本海を北東へ進んだ。このため、県内で1~23mmの雨が降った。また、12日は福岡で16時19分に南東の風24.3m/sの日最大瞬間風速を観測した。その後は18日まで高気圧に覆われて晴れの日が続いた。気温は平年より高く経過し、特に、12日は台風の影響で暖かい南よりの風が吹いたため各地で真夏日となり、福岡や前原などで日最高気温が34を超えた。

県内各地の旬平均気温は平年より1.7~2.1高く、旬降水量は0~28mm(平年比0~40%)と少なく、旬日照時間は平年比89~119%と平年並であった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量は少なく、日照時間は平年並であった。

9月下旬：晴れの日が多く、少雨

高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため、県内各地の日照時間は平年よりかなり多かった。

気温は概ね平年並で経過した。21日は台風第15号が四国の南海上を北東へ進んだため、福岡で12時35分に北東の風21.5m/sの日最大瞬間風速を観測した。24日から25日は前線が九州南岸付近に停滞した影響で、1~11mmの雨が降った所があった。30日の明け方は、放射冷却のため、日最低気温が添田で11.4、黒木で11.2を観測しこの秋一番の冷え込みとなった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.5~+0.4で、旬降水量は0~13mm(平年比0~16%)とかなり少なく、旬日照時間は平年比157~185%とかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

(10) 10月の気象概況

10月上旬：高気圧に覆われ晴れの日が多く、雨の少ない状態が続く

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため、県内各地の日照時間は平年より多かった。気温は概ね平年並で経過したが、1日は放射冷却のため気温が下がり、日最低気温が黒木で10.5、甘木や添田で10.9を観測するなど、この秋一番の冷え込みとなった。9日は日最高気温が黒木で29.8、甘木で29.6を観測するなど9月上旬並の気温となった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.4~+0.7で、旬降水量は0~2mm(平年比0~6%)とかなり少なく、旬日照時間は平年比106~138%だった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

10月中旬：晴れの日が多い、気温の変動が大きい

前半は低気圧や前線の影響で曇りや雨となる日があったが、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。12日から14日にかけては低気圧が九州南部付近と九州南海上を次々と通過した影響で、県内各地で6~38mmの雨が降った。気温は旬の初めは平年より高く、12日は日最高気温が黒木で31.5を観測するなど、日最高気温が30を超える真夏日となったところがあった。しかし、旬の中頃には寒気が入り、14日の日最高気温が添田で17.6を観測するなど各地で平年より1~5低くなった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.7~+0.2で、旬降水量は6~39mm(平年比18~122%)で、旬日照時間は平年比101~129%とだった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間は多かった。

10月下旬：晴れの日が多い、寒気の影響で気温は低め、24日と31日に少雨情報発表

高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため、県内各地の日照時間は平年よりかなり多かった。28日は寒冷前線が九州北部を通過し、0~7mmの雨が降った所があった。気温は、寒気の影響で平年より低い日が多く、特に24日は放射冷却も加わり、最低気温が甘木で2.6を観測するなど平年より4.1~6.6も低くなり、この秋一番の冷え込みとなった。また、9月中旬以降降雨の少ない状態が続き、今後も少雨を解消する雨は期待できない見込みとなったため、福岡管区気象台は24日と31日に九州北部地方に少雨に関する情報を発表した。県内各地の旬平均気温は平年より0.5~1.4低く、旬降水量は0~7mm(平年比0~41%)で、旬日照時間は平年比149~160%とかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は少なく、日照時間はかなり多かった。

(1 1) 1 1 月の気象概況

1 1 月上旬：曇りや雨の日が多い、気温はかなり高い

低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。このため、県内各地の日照時間は平年より少なかった。1日から3日にかけては気圧の谷の影響で、県内各地で2～47mmの雨が降った。5日から6日にかけては前線が九州南部に停滞し活動が活発となり、県内各地で21～72mmのまとまった雨が降った。8日から10日にかけては対馬海峡にある前線が九州南部付近まで南下し、県内各地で4～14mmの雨が降った。これらの雨により9月中旬から続いていた少雨傾向は、ほぼ解消された。気温は平年より高く経過し、特に8日の日最高気温は宗像で25.8、八幡を観測し、それぞれ11月の日最高気温としては最も高い値を記録した。また、旬平均気温でも10月中旬並の暖かさとなった。県内各地の旬平均気温は平年より3.5～4.3高く、旬降水量は31～123mm(平年比118～473%)で、旬日照時間は平年比44～69%と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。

1 1 月中旬：天気は周期的に変化、気温がかなり高く、降水量がかなり多い

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。11日から13日にかけては気圧の谷の影響を受けて県内各地で2～56mmの雨が降った。15日は南から暖かく湿った空気が流入したため県内各地で0～5mmの雨が降った。18日から20日にかけては低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で15～37mmの雨が降った。気温は概ね平年並か平年より高く経過したが、17日は放射冷却により日最低気温が行橋で4.0、18日は甘木で3.4を観測するなど冷え込んだ。また、18日は福岡でいちよの黄葉(平年より11日遅い)を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より1.6～2.5高く、旬降水量は39～85mm(平年比168～315%)と多く、旬日照時間は平年比85～100%だった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり多く、日照時間は少なかった。

1 1 月下旬：曇りや雨の日が多い、気温がかなり高い

初めは一時的に冬型の気圧配置となり、21日は県内で0～4mmの雨が降った。23日から24日にかけては移動性高気圧に覆われて晴れた。25日は寒気に伴う雲が流入し県内で0～4mmの雨が降った。後半は短い周期で低気圧や前線が通過したため、曇りや雨の日が多かった。27日から29日にかけては低気圧が九州南岸を通過したり、弱い寒冷前線が九州北部を通過したため、県内各地で10～52mmの雨が降った。30日は高気圧が北に偏って張り出したため北東流の影響で低い雲が流れ込み、県内各地で1～13mmの雨が降った。気温は、初めは寒気の影響を受けて各地で気温が下がり、特に23日は放射冷却も加わって日最低気温が黒木で0.2、甘木で0.5を観測するなど冷え込んだが、後半は平年より1～5高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より1.6～2.8高く、旬降水量は13～56mm(平年比40～212%)で、旬日照時間は平年比95～121%と平年並か多かった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量、日照時間は平年並であった。

(1 2) 1 2 月の気象概況

1 2 月上旬：中頃に低気圧が通過し、その後冬型の気圧配置となる

天気は周期的に変化した。3日から4日にかけては高気圧に覆われて晴れたが、5日から6日にかけては黄海から日本海へ進んだ低気圧から延びる寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で2~14mmの雨が降った。その後は冬型の気圧配置が続いて曇りの日が多かった。気温は、6日までは平年より高く経過したが、7日からは寒気の影響で平年を下回り、特に8日の最低気温は、黒木で-2.1、甘木で-1.0を観測した。また、2日は福岡でいちょうの落葉(平年より6日遅い)を、10日は福岡でいろはかえでの紅葉(平年より21日遅い)を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より1.1~2.0高く、旬降水量は2~14mm(平年9~82%)で、旬日照時間は平年比84~109%だった。

福岡の旬の平均気温は平年より高く、降水量はかなり少なく、日照時間は平年並であった。

1 2 月中旬：曇りや雨または雪の日が多い、19日は福岡で初雪

冬型の気圧配置が続き、曇りや雨または雪の日が多かった。このため、日照時間は県内各地で平年より少なかった。11日は九州の南海上にある低気圧の影響で、県内各地で18~25mmのまとまった雨が降った。19日は強い寒気が流れ込み、福岡で初雪(平年より6日遅く、昨年より10日遅い)を観測したほか、脊振山の初冠雪(平年より15日遅く、昨年より9日遅い)を観測した。

気温は、平年を下回る日が多く、特に20日は強い寒気の影響で、県内各地で日最高気温が4.2から6.3までしか上がらず、平年より約5~7低い厳しい寒さとなった。県内各地の旬平均気温は平年より0.3~1.5低く、旬降水量は21~49mm(平年比134~254%)で、旬日照時間は平年比45~74%だった。

福岡の旬の平均気温は平年より低く、降水量は多く、日照時間はかなり少なかった。

1 2 月下旬：気温の変動が大きい、21日は福岡で初霜、初氷

前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は高気圧と前線が交互に通じ、天気は数日の周期で変化した。26日は一時的に冬型の気圧配置となり、県内各地でみぞれや雪が降った。気温は周期的に大きく変動し、24日は日最高気温が久留米で16.9、甘木で16.8まで上がるなど11月中旬から下旬並の暖かさとなったが、28日は最低気温が甘木で-4.2、黒木で-3.8まで下がるなどこの冬一番の寒さとなった。21日は福岡で初霜(平年より13日遅い)と初氷(平年より6日遅い)を観測した。県内各地の旬平均気温は平年差-0.3~+1.8で、旬降水量は0~11mm(平年比0~75%)で、旬日照時間は平年比96~119%だった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量は少なく、日照時間は平年並だった。

(1 3) 月別値の階級区分

月別値の階級区分

年 月	平均気温	降水量	日照時間
平成 15 年 1 月	低い	少ない	少ない
平成 15 年 2 月	高い	多い	平年並
平成 15 年 3 月	平年並	平年並	平年並
平成 15 年 4 月	かなり高い	平年並	かなり少ない
平成 15 年 5 月	高い	平年並	少ない
平成 15 年 6 月	高い	平年並	平年並
平成 15 年 7 月	低い	多い	かなり少ない
平成 15 年 8 月	平年並	多い	少ない
平成 15 年 9 月	かなり高い	かなり少ない	かなり多い
平成 15 年 10 月	平年並	かなり少ない	かなり多い
平成 15 年 11 月	かなり高い	多い	少ない
平成 15 年 12 月	平年並	少ない	平年並

階級区分について

平成 13 年 1 月から使用を開始した 1971～2000 年統計値からは、「高い(多い)」、「平年並」、「低い(少ない)」の 3 階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」を補足的に用いることになりました。3 階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」(1:1:1)の等確率で、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」の出現率は 10%です。